平成 26 年 5 月 26 日

ところ会員　役員各位

ところ会　6 月行事案内

平成 26 年度、第 6 回テーマ：北山公園の花菖蒲と東村山の史跡をめぐる

北山公園は狭山丘陵を背景にした自然公園で、新東京百景に選ばれています。豊かな水と緑に囲まれ、220 種類 8 千株 10 万本の花菖蒲が咲き乱れます。今回は北山公園の菖蒲祭り（6 月 7 日～22 日）に合わせて日程を決めましたので、花菖蒲を楽しんで下さい。また、園内には多くの野草が自生しており、池やその周辺には多くの野鳥が集まり、羽を休め餌をついばむ姿を見ることもできます。付近には下宅部遺跡などの遺跡もあり、歴史散策を楽しみます。

記

１．**日　　時**：平成 26 年 6 月 13 日（金）

２．**集合場所**：東村山駅改札口の外　9 時 10 分集合

３．**コ ー ス**：

東村山駅（東村山停車場の碑）➡諏訪神社　➡東村山ふるさと歴史館
➡弁天池公園　➡経文橋　➡大善院　➡正福寺・千體地蔵堂　➡北山公園
➡八国山たいけんの里　➡下宅部遺跡　➡鎌倉街道　➡赤坂庚申塔
➡氷川神社　➡掬水亭（昼食）　➡西武遊園地西駅（山口線）経由で帰宅

■東村山市の歴史について

東村山市にはじめて人が足を踏み入れたのは今から**約 2 万年前**の旧石器時代のことです。縄文時代には水の得られる狭山丘陵地帯のふもと、前川・北川そして柳瀬川などに沿って多くの遺跡が残されています。発掘調査の結果、住居址や多くの土器・石器などが出土しています。

やがて奈良、平安時代になると北川・柳瀬川の低湿地に沿って、多くの集落ができました。住民はわずかな水田と小規模な畑によって、現在の多摩湖・廻田・諏訪・野口・久米川・秋津町などで生活を営んでいたようです。4 世紀のころから多摩地域にも大和文化の影響があらわれ、7 世紀半ばから 8 世紀（大化から大宝年間）になると武蔵国府中（府中市）に国府がおかれ、東村山市域を南北に貫いて上野国と武蔵国を結ぶ官道「**東山道**」が通じていました。

鎌倉幕府が成立すると「いざ鎌倉」への道として各地の道路が整備され、東村山地域を貫く道は**鎌倉街道**の中でも「**上ツ道**」として、久米川は宿駅として軍事的・経済的にも重視されたようです。

1590 年、徳川家康の江戸入りにともない、それまでの柳瀬川・前川・北川ぞいの古村は次々と南の原野を拓き発展していきました。承応 3 年（1654）には**玉川上水**が、承応 4 年には**野火止用水**が開さくされ、享保年間以降一面の原野であった武蔵野の**新田開発**がすすみました。東村山地域は近世を通じ**山口領に**属し、幕府直轄の天領や地頭領、寺領の分配支配となっていました。19 世紀初頭、文化・文政の頃は、多摩郡に属した南秋津村 114 戸、久米川村 186 戸、野口村 136 戸、廻田村 120 戸、宅部村 42 戸、そして入間郡に属した大岱（おんた）村は 70 戸で、江戸近郊の農村として幕末を迎えます。

明治維新直後の地方支配制度は流動し、東村山市域も韮山県、品川県など転々として明治 5 年（1872）南秋津、久米川、野口、廻田村は神奈川県に、そして埼玉県に属していた大岱村も明治 13 年には神奈川県に移りました。同 17 年に野口、廻田、久米川、大岱の 4 ヶ村組合が誕生しました。明治 22 年には南秋津村を加え、東村山村が成立しました。これが現在の東村山市の母体になっています。

その後、昭和 17 年（1942）に人口 1 万 852 人で町制を施行。昭和 39 年（1964）4 月には人口 6 万 6,012 人になり、東京都で 13 番目の市として第一歩を踏み出しました。（現在の人口は約 15 万 2 千人）

■下宅部遺跡

下宅部遺跡は、地形的には、北に狭山丘陵、南に北川（後川）が流れる、丘陵部分から低地部分に位置する遺跡です。遺跡の周辺は、宅部山遺跡、日向北、中の割、鍛冶谷ッ遺跡といった市内でも有数の遺跡に囲まれた場所でもあります。

今までの調査で、縄文時代後期・晩期（約 4,000 から 3,000 年前）と古墳時代（約 1,400 年前）、奈良・平安時代（約 1,200 年前）の遺構・遺物が数多く発見されました。

特に縄文時代では、当時の川の流れ跡から、木材を組み合わせた施設や、多量の縄文土器や石器、丸木舟未製品や丸木弓・飾り弓、木製容器、編み物などの木製品、当時の食生活や自然環境を物語る、シカ・イノシシの骨やトチノキ・クルミなどの植物が大量に出土しました。

また、奈良・平安時代では、**瓦塔**(がとう)と呼ばれる瓦質の五重塔の屋根の破片が出土しました。この破片は、1934 年に下宅部遺跡の北西約 250m にある、宅部山遺跡(マップ参照)からほぼ完全な形で出土して**東京国立博物館にて復元所蔵されている瓦塔**の一部であることが分かりました。さらに、刀や斧、鋤先などの鉄製品、文字や記号の書かれた墨書土器、曲げ物や馬鍬(まぐわ)、櫛などの木製品がまとまって出土した、杭などの構造物を伴う池状遺構も発見されました。

瓦塔

このように、下宅部遺跡は、**通常の遺跡ではきわめて残りにくい、木の道具や施設などが数多く残されていた**ことから、得られる情報も多く、当時の生活や自然環境などを具体的に復元することのできる貴重な遺跡です。

こうした貴重な遺跡であることから、遺跡の一部分は「下宅部遺跡はっけんのもり」として保存されています。
また、出土した 30 万点を超す資料は、遺跡現地より歩いて 5 分の「八国山たいけんの里」にて公開・収蔵されています。

４．見学場所簡単ガイド

■東村山停車場の碑(東村山駅西口)

明治 27 年、川越と甲武鉄道の国分寺を結ぶ川越鉄道が着工し、東村山に工事用の仮設駅がつくられました。翌 28 年、全線が開通し仮設駅は撤去されることとなりましたが、これからは鉄道が必要と考えた住民の運動で東村山停車場がつくられました。東村山の発展のもととなった停車場開設の尽力を記念した石碑です。(市有形民俗文化財・東村山 30 景)

■諏訪神社

化成小学校の隣にあり、御祭神はタケミナカタノミコト。 神社の祭礼などには、まつり囃子が行なわれます。 民俗芸能として江戸時代末期から盛んになって多くの流儀がありますが、市内にある 6 社は重松流です。 市無形民俗文化財。

■東村山ふるさと歴史館

東村山市は、古代の「東山道」、中世の「鎌倉街道」を軸に特徴ある歴史があり、これらを反映した文化財が残されています。ふるさと歴史館は文化財保護や歴史資料の収集を進め、東村山の歴史に関わる展示を開催しています。

《是非見ておきたいもの》

レプリカですがここでまとめて見られますよ。

①元弘の板碑：国指定重要文化財

元弘の板碑

飽間斎藤三郎藤原盛貞生年廿六
於武州府中五月十五日令打死
元弘三年　癸酉　五月十五日　敬白
同孫七家行廿三同死飽間孫三郎
宗良卅五於相州村岡十八日打死　執筆遍阿弥陀仏
勧進久阿弥陀仏

かつて将軍塚にあったという「元弘の板碑」は現在徳蔵寺に保存されており、ここにはレプリカがあります。

この板碑は長久寺を開基した久阿弥陀仏という勧進聖によって新田義貞の鎌倉攻めの際に討死した飽間一族の供養のため建てられたものです。

太平記は全 40 巻で、南北朝時代を舞台に、後醍醐天皇の即位から、鎌倉幕府の滅亡、建武の新政とその崩壊後の南北朝分裂などを描いている日本の歴史文学の中では最長の作品とされますが、その内容の信憑性に疑問が抱かれていました（5 月 8 日に僅か 150 騎で出陣した新田義貞は 5 月 10 日入間川では 20 万 7 千余騎になったと書かれている)。

しかしこの板碑に書かれている日付の 15 日は、太平記で分倍河原の合戦が行われたと書かれた日と一致することから太平記に対する歴史資料としての評価が変わったため国指定の重要文化財となっています。

②瓦塔（東京国立博物館所蔵）

説明は 3 ページ

③貞和の板碑（正福寺にある）

この他に正面入口にある古代の東山道・中世の鎌倉街道などを電飾で表示したヒストリーマップ、昔の人はよく持てたなぁと感心する 60kg もあるくずはきの背負子、国宝「正福寺地蔵堂」模型等。

■弁天池公園

この時期は多分睡蓮が咲いていると思います。

■経文橋（貞和の板碑があった所）

貞和の板碑は都内最大の板碑で、高さ 285 センチメートル・幅 55 センチメートル。小瀬川（現在の前川）の橋桁に使われ、この碑銘が川面に映って見えるので「経文橋」又は「念仏橋」と呼ばれていました。 板碑は正福寺境内に保存されています。

■大善院

明治 32 年慈善和尚により東村山に移り、以後「お不動さま」と地元では慕われています。境内には、高さ 7 メートルの山を築き、唐金製の三十六童子像

が安置されています。境内には童顔の六地蔵、大賀ハス（2000 年以上前の古代のハスの実から育てたハス）、七福神もあります。
注：三十六童子は不動明王に従う仏様です。不動明王は密教の根本尊である大日如来の化身、あるいはその内証（内心の決意）を表現したものであると見なされており、①矜迦羅（こんがら）童子、②制叱迦（せいたか）童子の二童子を従えますが、八大童子、三十六童子の場合もあります。

■正福寺・千體地蔵堂

正福寺は 1278 年鎌倉幕府の執権北条時宗が創建したと伝えられる臨済宗の寺です。そして境内の地蔵堂は国宝建造物として有名です（東村山 30 景）。

国宝の建造物は関東では日光の東照宮・大猷院霊廟、鎌倉の円覚寺の舎利殿（通常非公開）、東京の赤坂迎賓館とここの地蔵堂しかありません。鎌倉の円覚寺舎利殿とともに禅宗様建築の代表的遺構で、昭和 8、9 年の改修の際に発見された墨書銘により、室町時代の 1407 年（応永 14）建立とされています。堂内には延命地蔵菩薩とその周りや長押に小地蔵が並んでおり、祈願する人は、この像を一体借りて家に持ち帰り、願いが成就すれば、もう一体を添えて奉納するそうです。

地蔵堂の内部は、8 月 8 日、9 月 24 日、11 月 3 日の 3 日間一般公開され多くの人で賑わいます。

■北山公園

新東京百景に選ばれている北山公園は､6 月 7 日～22 日には菖蒲祭りが開催されています。狭山丘陵を背景にした自然公園で、豊かな水と緑に囲まれ、220 種類 8 千株 10 万本 10 万本の花菖蒲があります。入口の善行橋のそばの池にはカワセミがよく来ます。

■八国山たいけんの里

狭山丘陵の自然と人のカンケイをテーマに、八国山緑地周辺の動植物、環境、遺跡、暮らしなどを題材とした展示やさまざまな体験学習ができる施設です。体験学習をする時間はありませんが、市内の遺跡から発掘された出土品（本物です）の公開も行っており、なかでも東京都有形文化財に指定されている「縄文時代の漆製品」をはじめとした、貴重な「下宅部遺跡」出土品も間近で見学することができます。

漆塗りの弓

■下宅部遺跡はっけんのもり

縄文時代から奈良・平安時代を中心とする遺跡で、作りかけの丸木舟や水辺の施設などが発見され、当時のくらしがわかる貴重な下宅部遺跡が、現在は下宅部遺跡はっけんのもりとして整備されています（市史跡）。

■旧鎌倉街道

正福寺の前を通る下宅部通りは旧鎌倉街道の一つで、下山口を通り、椿峰、北野天神、誓詞橋を通る小手指道につながる道です。

■赤坂庚申塔

滑りやすい赤土の坂「赤坂道」は、中世からの古い道で、路傍には多くの石造物がみられます。この庚申塔は、右面に「山口くわんおん（観音）道」と刻まれ、道標もかねていました。隣には「坂東西国秩父百ヶ所」と刻まれた供養塔、付近には馬頭観音や石橋供養塔もあります（市有形民俗文化財）。

■氷川神社

素盞嗚命（すさのおのみこと）を祀り、例大祭は 9 月 9 日に近い土日。今は狭山公園として整備された狭山丘陵の中腹にあります。一帯は回田宅部(めぐりたやかべ)また下宅部ともいわれ、古くは境村、日向村などもあり、多摩湖の湖底に沈んだ村々の信仰も集めていたと思われます。

■狭山公園

多摩湖に隣接した公園。公園はプラタナスやマツ、サクラなどが繁り、花見シーズンには、公園を中心に大勢の見物客でにぎわいます。堰堤の上から眺める街並みは絶景のひと言。初日の出のポイントでもあります。6 月中旬から 7 月初旬にかけて､源氏と平家のホタルの光の舞いが見られます(東村山 30 景)。

■昼食：掬水亭

6 階の天外天にて「五目焼きそば＋杏仁豆腐」のセットを特別価格で予約します。

－八宝炒麺－

昼食後解散します。

西武遊園地西駅（山口線）から西武球場前駅経由で帰ります。
08 分　28 分　48 分発